知事との県民対話集会（信濃町）概要

・開催日時　　令和５年８月８日（火）　午前10時30分から正午まで
・会　　場　　信濃町ノマドワークセンター　ワークスペース
・参 加 者　　県民25名、鈴木信濃町長、阿部知事、尾島長野地域振興局長
・テ ー マ　　山村地域の豊かな土壌から豊かな未来へ ～持続可能な農業振興～

【参加者】
・道の駅しなの内の農産物直売所は町内農家の出荷により成り立っているが、農家の高齢化が進んでいる。高齢化による農家の減少は直売所にも影響がある。
・町の出荷協議会の役員等から話を聞くと、営農はできても高齢で車の運転ができず出荷できないという声は多い。出荷のサポートなどができないか検討している。

【参加者】
・昨年８月に地域おこし協力隊として赴任。それ以前は、SNSの動画配信活動を行っていた。農産物の振興をテーマに活動しているが、農業経験はないため、地元の方から様々なことを教わっている。
・昨年は郷土料理のつくり方を動画に残す活動を行い、今年からは有害鳥獣対策にも関わることになった。
・信濃町の農的な生活が町の人々の生きがいにつながっていることを実感しており、今後も農業に関係した活動を通して町の魅力を外部に伝えたい。
・農産物の出荷サポートのあり方などに対して、どのように対応できるのか検討したい。

【参加者】
・2008年に農業生産法人を起ち上げ、事業を開始。信濃町のブランド品であるトウモロコシを中心に、ジャガイモ、ニンジン、ソバなど栽培し、規模を拡大している。
・信濃町は営農に適した環境だが、近年の異常気象や物価高騰の影響により農業の衰退が深刻。
・当社では、最新技術の導入や農業の機械化、化学肥料などに頼らない野菜づくりなどを心掛け、耕作放棄地の再生にも注力している。また、天候リスクの分散のため、北海道でもソバ等を栽培している。
・今後、既存の６次産業化施設の有効利用や農業後継者の育成を進め、信濃町の農業を守っていくことが目標である。

【知事】
・北信五岳などの景観や自然の豊かさ、小林一茶の文化、避暑地としての優位性など、信濃町は資源がたくさんある地域と認識している。
・高齢者の免許返納が、公共交通の確保という問題に限らず、農業の出荷に影響しているというのは、お話を聞いて認識したところ。地域内での支え合いの仕組みづくりが必要と考えている。また、収穫の体験など出荷の必要がない形で、観光と農業を掛け合わせた取組なども考えてはどうか。
・地域おこし協力隊の方には、動画作成などのスキルを活かし、信濃町の魅力をぜひ発信してほしい。
・農業は可能性が大きい産業だと感じている。世界的には食糧問題が重要となっており、日本の農業は海外からも注目されている。農業技術や農産物の輸出は、これからも伸びていく可能性があると思う。また、信濃町は他地域に比べて特徴のある農産物を生産しているので、観光と結び付けた農業振興も期待できると思う。

【参加者】
・生活改善グループでは、地産地消の推進、地元農産物のおいしさの再認識を目指して、伝統野菜を活用した食育活動や味の研究会などを行っている。グループの活動を通して、地元の野菜を使った伝統料理や保存食を知ることができ、町独自の食文化と地元農産物の魅力を再認識することができた。
・今後は町の風土に合った郷土食の素朴なおいしさを若い世代にもつなげていけるよう活動していくほか、農業と観光の連携のお手伝いができるよう取り組んでいきたい。

【知事】
・食は、文化と密接につながっているが、しっかりと残していく活動がなければ廃れてしまう。皆さんの活動には敬意を表したい。
・農業と観光の連携が広がるよう県としても努力したいと思う。地域振興局にもテーマとして認識してもらいたい。
・インバウンドの観光客には伝統野菜を使った料理が喜ばれるのではないか。また、県としては、国内外から教育旅行を呼び込みたいと考えており、教育旅行との連携に可能性があると思う。

【参加者】
・学校に行けない、行かない子どもや親に寄り添い、サポートする活動を行ってきた。活動の中で、そうした子どもたちや障がいのある方の仕事の選択肢という課題を見出し、仕事をつくるという視点からNPO法人を立ち上げた。
・NPO法人には、おしごと部門とフリースクール部門があり、おしごと部門では、信濃町の特産品でもある甘茶や和ハッカなどの薬草栽培を専門家の指導も受けて取り入れている。フリースクール部門では、子どもたちが様々なリアルな体験ができるよう、工夫して取り組んでいる。

【知事】
・農業と福祉はさらに連携の余地があると思う。農業が担い手不足の中、障がいのある方は自分に合った就労場所を見つけるのが難しい現実がある。子どもたちの働き方なども含め、お話を踏まえて考えたい。
・県ではフリースクールの認証制度を検討しており、また、学びの改革に取り組もうとしている。個別最適な学びなどについて、信州学び円卓会議で検討していく。今後、地域ごとにも意見交換の場を設けたいと考えている。
・信濃町には薬草文化があり、県としても関わっていかなければと考えている。

【参加者】
・信濃町には、豊かな自然、農産物がある。地元のおいしい野菜、食を通して郷里のよさを感じているが、実際に野菜をつくる農業という仕事には、消極的な意見を持った生徒が多かった。
・職場体験の学習の中で、農業体験をきっかけに、野菜を収穫した際の充実感や、野菜づくりを通した人とのつながりを知ることができた生徒がいた。農業を持続するために、自分たちに何かできないかなどの声もあった。
・長野市街地や東京から近い特性などを活かし、信濃町の農産物をPR、発信したいと思う。
・信濃町役場と児童生徒が開発した信濃町の豊かな水をPRするキャラクター「ほちゃ」を活用し、水の大切さを広く発信したいので、長野県のゆるキャラが参加する場に呼んでほしい。

【知事】
・皆さんが感じたままを大事にしてもらいたい。皆さんはまだ若く、先入観がない。大人と皆さんとでは、信濃町の見え方はそれぞれ違うと思う。
・大人の目から見ると課題が語られることが多いが、自分たちの感性や受け止め方を大事にしながら信濃町のよいところを見つけてほしい。

【参加者】
・信濃町では薬草を栽培する農家が減少している。薬草栽培の付加価値をどのように上げていくかが課題と感じている。薬草を活用している県内企業、農家、行政が連携し、ブランド化を図り、薬草農家のモチベーションを維持できればと思う。

【知事】
・薬草について、遊休農地の活かし方などを含め、関係者の方と話し合いたい。

【参加者】
・観光と農業の連携は、町内で20年前から話に出ており、既に長年の課題であると認識している。県、町を含めて、本腰を入れて観光と農業の連携などに取り組んでほしい。

【参加者】
・日本は自然や食べ物、人柄、文化で世界に注目されており、中でもオリンピック開催で長野の知名度は高い。サステナビリティな観点から、農業体験を海外の大学生に提供することは価値があるのではないか。

【知事】
・観光も農業もかつてとあり方は変化している。町にも協力をいただき、農業と観光の連携のあり方を検討したい。
・長野県はSDGs未来都市に選定されている。サステナビリティに注力しており、そうした観点で観光にも取り込めればと思う。